

「地鶏等の生産振興のための組合せ検定結果について」

(27 年度実施分：終了報告)

1. 目的

都道府県及び民間が行う地鶏及び銘柄鶏による鶏肉生産の振興を図るため、家畜改良センターが保有する品種・系統を用いた地鶏等の生産に有用と思われる組合せについて、産肉性又は産卵性に係る検定を行い、検定の結果について都道府県及び民間ブリーダーに広く情報提供を行う。これによりセンターが作出する特長ある育種素材を有効にご活用頂き、地鶏等の作出に繋げる。

2. 検定内容 (表 1)

組合せ(鶏種)		性	用 途	検定期間	羽数	給餌方法	備考
57×86 (RC*RIR)	①	♂	コマーシャル (CM♂)	0～12W (0～84日齢)	100羽	不断給餌	(ふ化) 15/3/9
	②	♀	コマーシャル (CM♀)	0～12W (0～84日齢)	100羽	不断給餌	
57×XSYC (RC*交雑種)	③	♂	コマーシャル (CM♂)	0～12W (0～84日齢)	100羽	不断給餌	
	④	♀	コマーシャル (CM♀)	0～18W (0～126日齢)	100羽	不断給餌	
834×XSYC (軍鶏合成種*交雑種)	⑤	♂	コマーシャル (CM♂)	0～18W (0～126日齢)	100羽	不断給餌	
	⑥	♀	コマーシャル (CM♀)	0～18W (0～126日齢)	100羽	不断給餌	
57×831 (RC*軍鶏赤笹)	⑦	♂	雄系種鶏 (PS♂)	0～22W (0～154日齢)	100羽	15日齢～ 制限給餌	(ふ化) 15/4/6
87×981 (名古屋種*劣WR)	⑧	♀	雌系種鶏 (PS♀)	0～40W (0～280日齢)	100羽	15日齢～ 制限給餌	(ふ化) 15/3/9
88×YC (BPR*RIR)	⑨	♀	雌系種鶏 (PS♀)	0～40W (0～280日齢)	100羽	15日齢～ 制限給餌	(ふ化) 15/4/6

※ 57(兵庫牧場系)＝RC：レッドコーニッシュ、86(兵庫牧場系)＝RIR：ロートアイランドレッド、XSYC(岡崎牧場系)＝交雑種：岡崎おうはん、
834(兵庫牧場系)＝軍鶏合成種：龍軍鶏ごろう、831(兵庫牧場系)＝軍鶏赤笹、981(兵庫牧場系)＝劣WR：劣性白色プリマスロック、
88(兵庫牧場系)＝BPR：横斑プリマスロック、YC(岡崎牧場系)＝RIR：ロートアイランドレッド

3. 測定項目・時期（表2）

測定項目	測定時期			測定又は 計算羽数
	コマーシャル	雄系種鶏	雌系種鶏	
体 重	2・4・6・8・10週齢	2・4・6・8・10週齢	2・4・6・8・10週齢	20%抽出
	12週齢	12週齢	12週齢	全 数
	14・16週齢	14・16週齢	14・16週齢	20%抽出
	18週齢	18週齢	18週齢	全 数
	—	20・22週齢	20・22・24・40週齢	10%抽出
飼料要求率	0～18週齢	—	—	全 数
週齢毎飼料給餌量	—	0～22週齢	0～40週齢	全 数
羽 色	0週齢	0週齢	0週齢	20%抽出
	18週齢	18週齢	18週齢	全 数
外貌の特徴	18週齢	18週齢	18週齢	全 数
育 成 率	18週齢	22週齢	22週齢	全 数
生 存 率	—	—	40週齢	全 数
へい死・淘汰理由	18週齢	22週齢	40週齢	全 数
50%産卵日齢	—	—	50%産卵日齢時	全 数
週齢毎産卵率	—	—	初産～40週齢	全 数
ピーク産卵率	—	—	初産～40週齢	全 数
期間産卵率	—	—	31～40週齢	全 数
採卵量及び 週齢毎平均卵重	—	—	初産から毎週1回	全 数
卵 重	—	—	35週齢(3日間)	全 数
卵殻強度	—	—	35週齢(3日間)	全 数

注1) コマーシャル検定について、12週齢以前の体重測定の結果が平均3kg以上となった場合は、12週齢時に全個体についての体重、飼料要求率、羽色、外貌の特徴、育成率及びへい死・淘汰理由のデータを収集し、検定を終了できるものとした。

注2) 雄系種鶏検定について、18週齢以前の体重測定の結果が平均3kg以上となった場合は、18週齢時に全個体についての週齢毎飼料給餌量、育成率及びへい死・淘汰理由のデータを収集し、検定を終了できるものとした。

4. 検定場所・飼養管理条件

(1) 検定場所：(独)家畜改良センター岡崎牧場（以下：岡崎牧場）

(2) 鶏舎構造：セミウインドレス・平飼い鶏舎（7.2m×4.6m=33.12m²/室：群飼）

※ P S の「⑧87×981♀」は147日齢から、「⑦57×831♂」・「⑨88×YC♀」は133日齢からセミウインドレス・ケージ鶏舎（30cm×45cm=1,350cm²/室：単飼）

(※ 原則として、平飼い鶏舎を用いる。ただし、種鶏検定については、必要に応じてケージ鶏舎を用いることができるものとした。)

(3) 給与飼料：0～21日齢＝幼すう用配合飼料（ME2,900～2,980kcal/kg, CP20～22%）

22～42日齢＝中すう用配合飼料（ME2,800～2,850kcal/kg, CP17～18%）

43～154日齢＝大すう用配合飼料（ME2,750～2,800kcal/kg, CP14～15%）

155日齢以降＝成鶏用配合飼料（ME2,830kcal/kg, CP17%）

(4) 制限給餌：岡崎牧場のプログラムによる

(5) 点灯管理：<CM♂♀> 0～全期間＝14時間点灯（20Lux）

<P S ♀> 0～17日齢＝24～22時間点灯（20Lux）

18～20日齢＝20～16時間点灯（20Lux）

21日齢以降＝14時間点灯（20Lux）

5. 検定結果

(1) 体重

ア CM組合せ (表3～10、図1～5 参照)

CMの体重は、12・18週齢を全羽数とし、18週齢までのその他の週齢を20%抽出(20羽)として測定した。

「57×86」では、12週齢(84日齢)で♂4.5 kg・♀3.5 kgという結果となった。また、20%抽出の6～10週齢での体重を考慮し、CMの出荷体重を2.8～3.0 kgと想定した場合、♂で54～57日齢程度、♀で65～68日齢程度での出荷が見込まれる。

(表3) <①57×86♂>「CM♂」体重の推移

	0週齢	2週齢	4週齢	6週齢	8週齢	10週齢	12週齢	14週齢	16週齢	18週齢
	0日	15日	29日	43日	59日	71日	84日	-	-	-
平均体重(g)	37	403	1,071	2,015	3,187	3,933	4,455	-	-	-
最大(g)	44	445	1,169	2,253	3,580	4,325	5,260	-	-	-
最小(g)	32	369	909	1,838	2,440	3,430	2,945	-	-	-
標準偏差(g)	3.4	17.8	73.1	118.8	283.2	226.1	473.4	-	-	-
変動係数	9.23	4.41	6.82	5.90	8.89	5.75	10.63	-	-	-
測定羽数(羽)	20	20	20	20	20	20	90	-	-	-

(表4) <②57×86♀>「CM♀」体重の推移

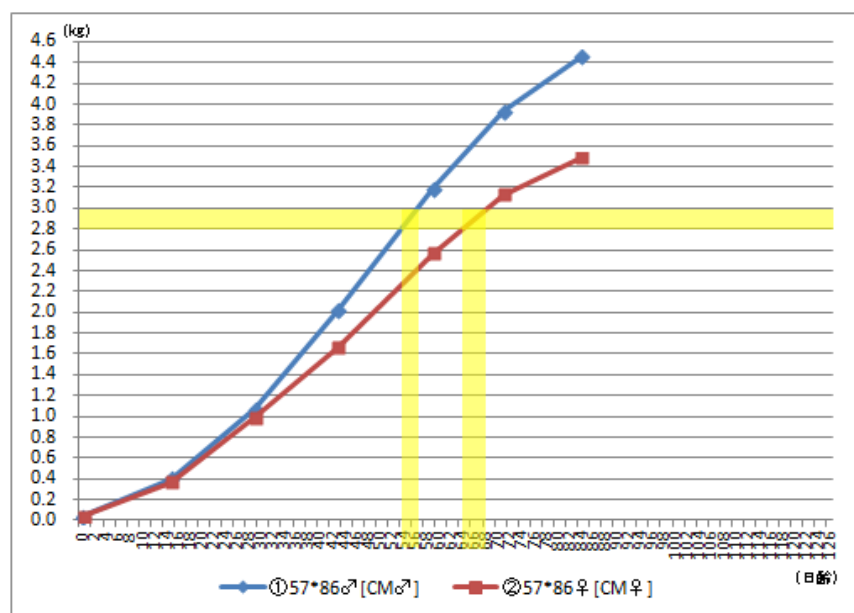
	0週齢	2週齢	4週齢	6週齢	8週齢	10週齢	12週齢	14週齢	16週齢	18週齢
	0日	15日	29日	43日	59日	71日	84日	-	-	-
平均体重(g)	37	368	990	1,660	2,564	3,134	3,483	-	-	-
最大(g)	45	414	1,169	2,009	2,898	3,740	4,130	-	-	-
最小(g)	31	330	902	1,296	2,215	2,550	2,520	-	-	-
標準偏差(g)	3.6	24.1	61.2	176.4	182.5	292.9	309.1	-	-	-
変動係数	9.92	6.56	6.18	10.63	7.12	9.34	8.87	-	-	-
測定羽数(羽)	20	20	20	20	20	20	96	-	-	-

※ 上記の表3・4における12・18週齢の全数測定において、発育不良等により極端に低い体重のものは、異常値として集計から除外した。

(表5) 平均体重の推移

(単位: 週、日、kg)

週齢	CM日齢	①	②
0	0	0.04	0.04
2	15	0.40	0.37
4	29	1.07	0.99
6	43	2.02	1.66
8	59	3.19	2.56
10	71	3.93	3.13
12	84	4.45	3.48
14			
16			
18			



(図1) <57×86>♂♀の平均体重の推移

※ 表5の青色部は全羽数、0～10、14～16週齢は20%抽出。

※ 図1の黄色部はCM♂♀の見込出荷日齢・体重。

「57×XSYC」では、12週齢(84日齢)で♂3.4 kg・♀2.6 kg、その後、検定を継続した♀は18週齢(126日齢)で3.5 kgという結果となった。また、20%抽出の10～14週齢での体重を考慮し、CMの出荷体重を2.8～3.0 kgと想定した場合、♂で72～76日齢程度、♀で92～98日齢程度での出荷が見込まれる。

(表6) <③57×XSYC♂>「CM♂」体重の推移

	0週齢	2週齢	4週齢	6週齢	8週齢	10週齢	12週齢	14週齢	16週齢	18週齢
	0日	15日	29日	43日	59日	71日	84日	-	-	-
平均体重(g)	38	298	792	1,437	2,319	2,782	3,382	-	-	-
最大(g)	44	343	890	1,607	2,870	3,019	3,845	-	-	-
最小(g)	32	270	700	1,302	1,809	2,450	2,620	-	-	-
標準偏差(g)	3.5	18.8	50.5	89.6	252.5	154.5	240.6	-	-	-
変動係数	9.05	6.32	6.37	6.24	10.89	5.55	7.11	-	-	-
測定羽数(羽)	20	20	20	20	20	20	99	-	-	-

(表7) <④57×XSYC♀>「CM♀」体重の推移

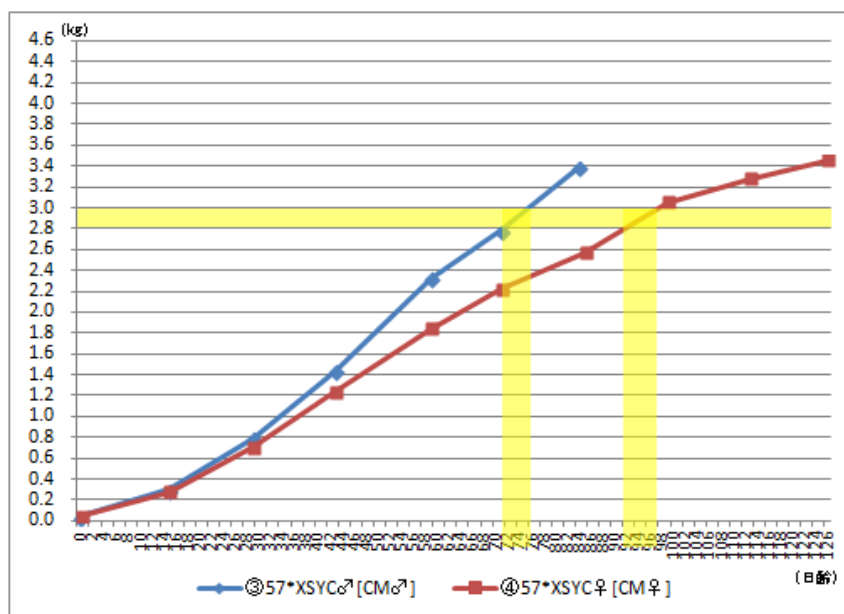
	0週齢	2週齢	4週齢	6週齢	8週齢	10週齢	12週齢	14週齢	16週齢	18週齢
	0日	15日	29日	43日	59日	71日	85日	99日	113日	126日
平均体重(g)	39	277	705	1,235	1,839	2,219	2,571	3,053	3,280	3,453
最大(g)	44	316	789	1,556	2,235	2,490	3,185	3,545	3,675	4,285
最小(g)	34	229	614	1,020	1,510	1,950	2,095	2,675	2,875	2,588
標準偏差(g)	3.1	23.1	41.8	121.6	148.1	147.0	210.3	211.6	214.8	359.3
変動係数	7.91	8.36	5.93	9.84	8.06	6.63	8.18	6.93	6.55	10.41
測定羽数(羽)	20	20	20	20	20	20	96	20	20	95

※ 上記の表6・7における12・18週齢の全数測定において、発育不良等により極端に低い体重のものは、異常値として集計から除外した。

(表8) 平均体重の推移

(単位:週、日、kg)

週齢	CM日齢	③	④
0	0	0.04	0.04
2	15	0.30	0.28
4	29	0.79	0.71
6	43	1.44	1.24
8	59	2.32	1.84
10	71	2.78	2.22
12	84-85	3.38	2.57
14	99		3.05
16	113		3.28
18	126		3.45



(図2) <57×XSYC>♂♀の平均体重の推移

※ 表8の青色部は全羽数、0～10, 14～16週齢は20%抽出。

※ 図2の黄色部はCM♂♀の見込出荷日齢・体重。

「834×XSYC」では、12週齢(84日齢)で♂2.9 kg・♀2.2 kg、18週齢(126日齢)で♂3.6 kg・♀2.9 kgという結果となった。また、20%抽出の10～18週齢での体重を考慮し、CMの出荷体重を2.8～3.0 kgと想定した場合、♂で81～86日齢程度、♀で122～129日齢程度での出荷が見込まれる。

(表9) <⑤834×XSYC♂>「CM♂」体重の推移

	0週齢	2週齢	4週齢	6週齢	8週齢	10週齢	12週齢	14週齢	16週齢	18週齢
	0日	15日	29日	43日	59日	71日	84日	98日	113日	126日
平均体重(g)	38	259	666	1,180	1,937	2,377	2,943	3,391	3,490	3,592
最大(g)	43	296	734	1,301	2,245	2,665	3,490	3,750	4,015	4,815
最小(g)	33	230	569	958	1,605	2,175	2,550	2,645	2,640	2,805
標準偏差(g)	2.7	15.5	37.2	101.3	161.0	134.3	198.1	279.3	393.1	362.9
変動係数	6.99	6.00	5.59	8.59	8.31	5.65	6.73	8.24	11.26	10.10
測定羽数(羽)	20	20	20	20	20	20	98	20	20	93

(表10) <⑥834×XSYC♀>「CM♀」体重の推移

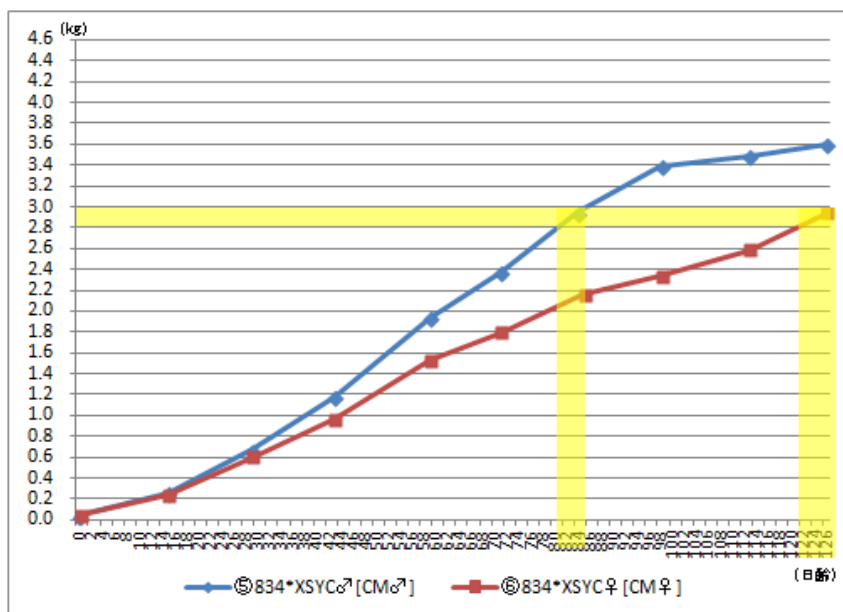
	0週齢	2週齢	4週齢	6週齢	8週齢	10週齢	12週齢	14週齢	16週齢	18週齢
	0日	15日	29日	43日	59日	71日	85日	98日	113日	126日
平均体重(g)	37	239	597	964	1,527	1,795	2,153	2,337	2,586	2,936
最大(g)	43	256	659	1,147	1,820	2,020	2,645	2,690	3,275	3,580
最小(g)	30	210	533	828	1,210	1,350	1,785	1,870	2,170	2,305
標準偏差(g)	3.0	12.4	32.6	81.1	139.4	176.5	179.1	214.0	276.2	264.7
変動係数	8.23	5.17	5.46	8.42	9.13	9.83	8.32	9.16	10.68	9.02
測定羽数(羽)	20	20	20	20	20	20	93	20	20	90

※ 上記の表9・10における12・18週齢の全数測定において、発育不良等により極端に低い体重のものは、異常値として集計から除外した。

(表11) 平均体重の推移

(単位:週、日、kg)

週齢	CM日齢	⑤	⑥
0	0	0.04	0.04
2	15	0.26	0.24
4	29	0.67	0.60
6	43	1.18	0.96
8	59	1.94	1.53
10	71	2.38	1.80
12	84-85	2.94	2.15
14	98	3.39	2.34
16	113	3.49	2.59
18	126	3.59	2.94

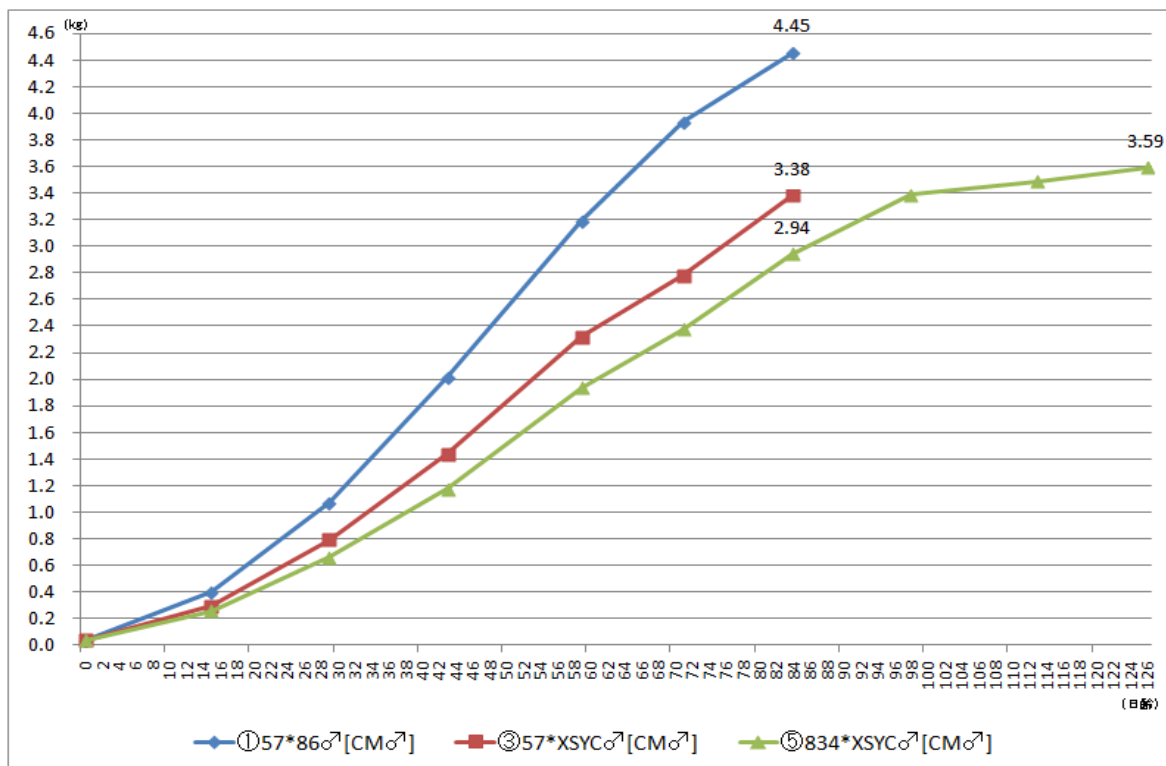


(図3) <834×XSYC> ♂♀の平均体重の推移

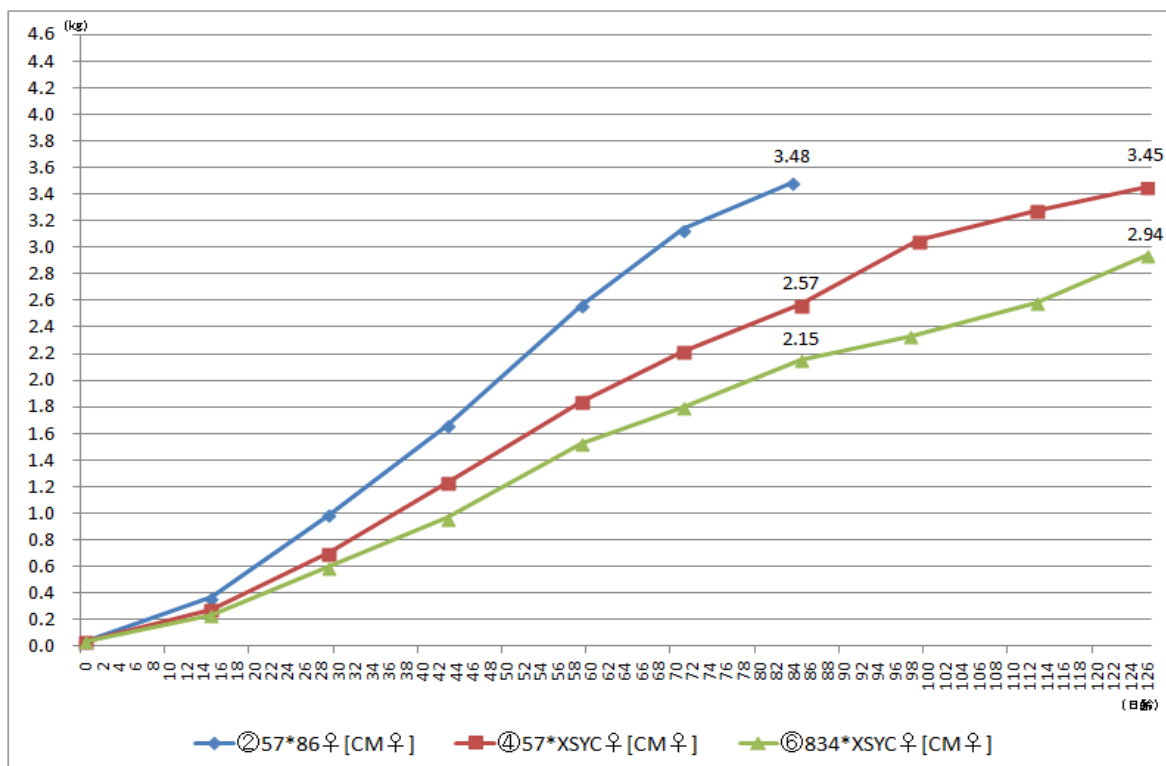
※ 表11の青色部は全羽数、0～10、14～16週齢は20%抽出。

※ 図3の黄色部はCM♂♀の見込出荷日齢・体重。

<参考> ♂ ♀ 別平均体重



(図 4) CM♂の平均体重の推移



(図 5) CM♀の平均体重の推移

イ P S 組合せ (表 12~14、図 6 参照)

P S の体重は、12・18 週齢を全羽数とし、20 週齢までのその他の週齢を 20%抽出 (20 羽)、22 週齢から 40 週齢までの週齢を 10%抽出 (10 羽) として測定した。

P S は、15 日齢からの制限給餌により、飼料給餌量に応じてなだらかに上昇し、「⑦57×831♂」は 12 週齢で 1.6 kg、18 週齢で 2.2 kg、検定終了時の 22 週齢で 2.7 kg となった。

一方、「⑧87×981♀」は12週齢で1.3 kg、18週齢で1.8 kg、「⑨88×YC♀」は12週齢で1.2 kg、18週齢で1.7 kgとなった。また、P S ♀は、18週齢以降からの産卵率に応じた段階的な飼料給餌量の増加により、40週齢では「⑧87×981♀」が3.6 kg、「⑨88×YC♀」が3.1 kgとなった。

(表 12) <⑦57×831♂>「P S ♂」体重の推移

	0週齢	2週齢	4週齢	6週齢	8週齢	10週齢	12週齢	14週齢	16週齢	18週齢	20週齢	22週齢
	0日	15日	31日	43日	57日	72日	84日	99日	114日	126日	142日	154日
平均体重 (g)	39	304	667	908	1,252	1,462	1,589	1,654	1,968	2,180	2,558	2,685
最大 (g)	45	366	760	1,015	1,460	1,726	2,175	1,970	2,645	3,115	3,165	3,340
最小 (g)	35	249	580	825	1,030	1,225	1,140	1,410	1,585	1,630	2,150	2,195
標準偏差 (g)	3.1	27.9	50.6	53.1	102.7	127.0	173.3	189.2	261.8	317.6	325.9	387.7
変動係数	7.83	9.19	7.58	5.85	8.20	8.69	10.91	11.43	13.31	14.57	12.74	14.44
測定羽数(羽)	20	20	20	20	20	20	97	20	20	87	10	10

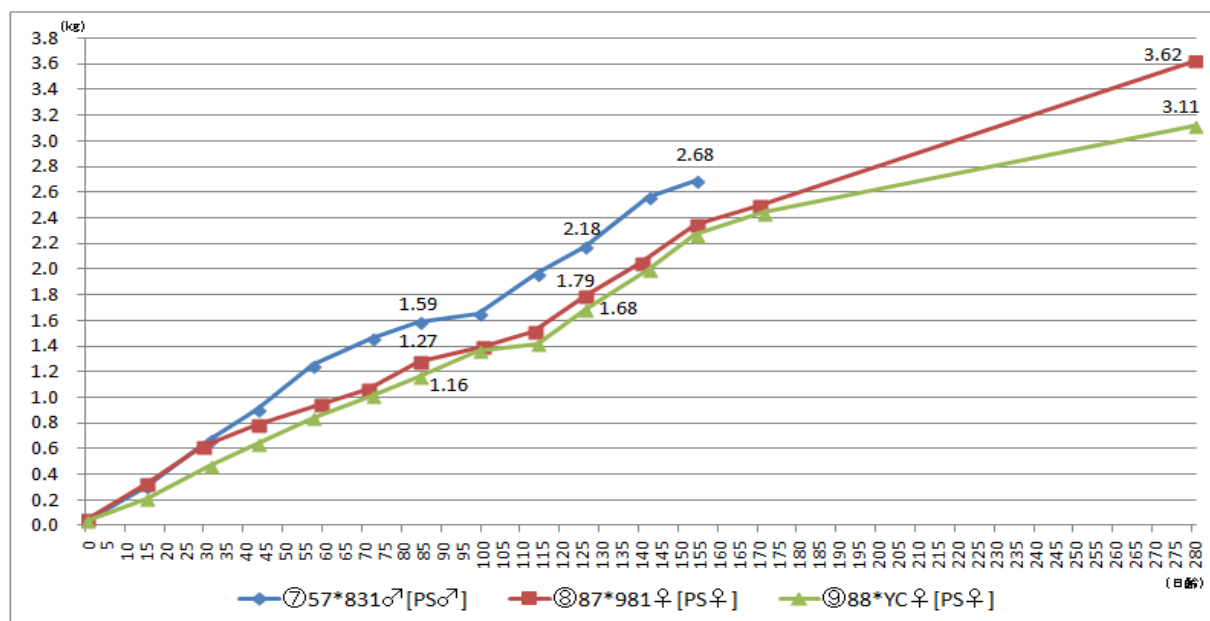
(表 13) <⑧87×981♀>「P S ♀」体重の推移

	0週齢	2週齢	4週齢	6週齢	8週齢	10週齢	12週齢	14週齢	16週齢	18週齢	20週齢	22週齢	24週齢	40週齢
	0日	15日	29日	43日	59日	71日	84日	100日	113日	126日	140日	154日	170日	280日
平均体重 (g)	44	323	609	789	941	1,060	1,273	1,391	1,516	1,789	2,051	2,344	2,494	3,623
最大 (g)	51	363	721	927	1,110	1,205	1,665	1,734	1,975	2,465	2,640	2,840	2,960	4,315
最小 (g)	40	298	559	666	775	920	930	1,080	1,135	1,280	1,735	1,900	1,930	2,920
標準偏差 (g)	2.9	19.9	33.2	71.5	91.0	77.9	152.6	204.9	197.8	250.0	315.4	304.3	326.6	439.4
変動係数	6.46	6.18	5.45	9.07	9.67	7.35	11.98	14.73	13.05	13.97	15.38	12.98	13.10	12.13
測定羽数(羽)	20	20	20	20	20	20	96	20	20	94	10	10	10	10

(表 14) <⑨88×YC♀>「P S ♀」体重の推移

	0週齢	2週齢	4週齢	6週齢	8週齢	10週齢	12週齢	14週齢	16週齢	18週齢	20週齢	22週齢	24週齢	40週齢
	0日	15日	31日	43日	57日	72日	84日	99日	114日	126日	142日	154日	171日	280日
平均体重 (g)	38	212	468	641	842	1,012	1,161	1,366	1,421	1,685	1,995	2,268	2,441	3,115
最大 (g)	42	298	545	750	935	1,120	1,420	1,495	1,670	1,970	2,130	2,475	2,686	3,350
最小 (g)	32	189	395	545	715	880	930	1,200	1,245	1,360	1,710	2,070	2,206	2,805
標準偏差 (g)	2.4	24.1	41.2	55.3	52.4	65.1	104.2	80.0	119.3	145.1	133.8	143.2	183.9	179.4
変動係数	6.41	11.37	8.82	8.63	6.22	6.43	8.97	5.86	8.39	8.61	6.71	6.31	7.53	5.76
測定羽数(羽)	20	20	20	20	20	20	91	20	20	89	10	10	10	10

※ 上記の表 12～14 における 12・18 週齢の全数測定において、発育不良等により極端に低い体重のものは、異常値として集計から除外した。



(図 6) P S の平均体重の推移

(2) 飼料要求率 (CMのみ、表 15・16 参照)

CMは不断給餌であり、飼料摂取時の餌溢しが著しく、へい死鶏・淘汰鶏の飼料給餌量も含めた算出とした。

このため、飼料要求率は0～12週齢で「57×86」が♂3.3(給餌量:172g/日/羽)・♀3.4(同:142g/日/羽)、「57×XSYC」が♂3.1(給餌量:123g/日/羽)・♀3.5(同:106g/日/羽)、「834×XSYC」が♂3.2(給餌量:111g/日/羽)・♀3.6(同:90g/日/羽)となった。一方、18週齢まで検定継続となった組合せでは、0～18週齢で「57×XSYC」が♀4.3(同:118g/日/羽)、「834×XSYC」が♂4.4(給餌量:122g/日/羽)・♀4.7(同:107g/日/羽)となった。

(表 15) CM♂♀の0～12週齢(0～84日齢)の飼料要求率

組合せ	性	期末羽数 (羽)	平均体重 (g)	増体量 (kg)	飼料給餌量		飼料 要求率
					(kg)	(g/日/羽)	
57×86	① ♂	92	4,455	401.7	1,331	172	3.31
	② ♀	98	3,483	339.4	1,169	142	3.44
57×XSYC	③ ♂	99	3,382	330.8	1,020	123	3.08
	④ ♀	97	2,571	246.0	863	106	3.51
834×XSYC	⑤ ♂	98	2,943	284.4	910	111	3.20
	⑥ ♀	95	2,153	199.6	720	90	3.61

(表 16) CM♂♀の0～18週齢(0～126日齢)の飼料要求率

組合せ	性	期末羽数 (羽)	平均体重 (g)	増体量 (kg)	飼料給餌量		飼料 要求率
					(kg)	(g/日/羽)	
57×XSYC	④ ♀	95	3,453	324.0	1,408	118	4.34
834×XSYC	⑤ ♂	94	3,592	332.6	1,449	122	4.36
	⑥ ♀	91	2,936	262.6	1,230	107	4.68

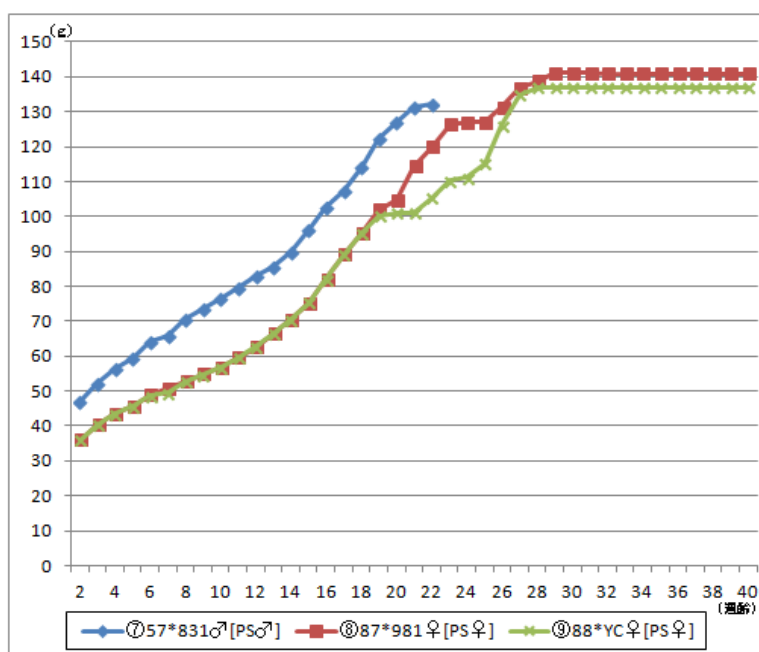
(3) 週齢毎飼料給餌量 (PSのみ、表 17・図 7 参照)

PSは15日齢から制限給餌を実施し、産卵開始までの期間は種鶏の育成に必要なME(代謝エネルギー)量に応じた量を給餌した。産卵率が5%に達した26週齢(185日齢)以降は産卵率の上昇に応じた給餌量を給与した。

(表 17)

(単位: g)

	⑦	⑧	⑨		⑧	⑨
0W	飽食	飽食	飽食	23W	126	110
1W				24W	127	111
2W	47	36	36	25W	127	115
3W	52	40	40	26W	131	126
4W	56	44	44	27W	137	135
5W	60	46	46	28W	139	137
6W	64	49	49	29W	141	137
7W	66	51	50	30W	141	137
8W	71	53	53	31W	141	137
9W	74	55	55	32W	141	137
10W	77	57	57	33W	141	137
11W	80	60	60	34W	141	137
12W	83	63	63	35W	141	137
13W	86	66	66	36W	141	137
14W	90	70	70	37W	141	137
15W	96	75	75	38W	141	137
16W	103	82	82	39W	141	137
17W	107	89	89	40W	141	137
18W	114	95	95			
19W	122	102	100			
20W	127	105	101			
21W	131	114	101			
22W	132	120	105			



(図 7) PSの週齢毎飼料給餌量の推移

※ 1日1羽当たり給餌量を週齢毎に平均化して算出。

※ 0日齢から産卵開始までの給餌量は、外国銘柄鶏の種鶏マニュアルの目標摂取ME量を参考とした。

※ 産卵開始後の給餌量は、兵庫牧場専用種飼料給餌量モデルの産卵率に応じた摂取ME量を参考とした。

(4) 羽色・外貌特徴

ア 0 週齢時（CM・P S：羽色のみ(20%抽出)、図 8－1～9 参照）

羽色は、その組合せの中で多く占めている羽色タイプを順に、羽数をカウントすることとした。

CMの「①57×86♂」は、全て（20 羽中 20 羽）が羽色タイプⅠ（褐色）であった。

「②57×86♀」は、全て（20 羽中 20 羽）が羽色タイプⅠ（淡褐色）であった。

「③57×XSYC♂」は、羽色が 3 タイプあり、羽色タイプⅠ（黒色）が 55%（20 羽中 11 羽）、羽色タイプⅡ（白色）が 40%（20 羽中 8 羽）、羽色タイプⅢ（白色斑）が 5%（20 羽中 1 羽）を占めた。

「④57×XSYC♀」は、羽色が 3 タイプあり、羽色タイプⅠ（黒色）が 50%（20 羽中 10 羽）、羽色タイプⅡ（淡褐色）が 35%（20 羽中 7 羽）、羽色タイプⅢ（褐色斑）が 15%（20 羽中 3 羽）を占めた。

「⑤834×XSYC♂」は、羽色が 3 タイプあり、羽色タイプⅠ（黒色）が 50%（20 羽中 10 羽）、羽色タイプⅡ（白色）が 40%（20 羽中 8 羽）、羽色タイプⅢ（淡褐色）が 10%（20 羽中 2 羽）を占めた。

「⑥834×XSYC♀」は、羽色が 3 タイプあり、羽色タイプⅠ（黒色）が 55%（20 羽中 11 羽）、羽色タイプⅡ（淡褐色）が 35%（20 羽中 7 羽）、羽色タイプⅢ（褐色斑）が 10%（20 羽中 2 羽）を占めた。



(図 8－1) <①57×86♂>「CM♂」の羽色



(図 8－2) <②57×86♀>「CM♀」の羽色



(図 8 - 3) <③57×XSYC♂>「CM♂」の羽色



(図 8 - 4) <④57×XSYC♀>「CM♀」の羽色



(図 8 - 5) <⑤834×XSYC♂> 「CM♂」の羽色



(図 8 - 6) <⑥834×XSYC♀> 「CM♀」の羽色

一方、P Sの「⑦57×831♂」は、羽色が3タイプあり、羽色タイプⅠ（褐色）が80%（20羽中16羽）、羽色タイプⅡ（黒褐色斑）が15%（20羽中3羽）、羽色タイプⅢ（淡褐色）が5%（20羽中1羽）を占めた。

「⑧87×981♀」は、羽色が3タイプあり、羽色タイプⅠ（淡褐色斑）が85%（20羽中17羽）、羽色タイプⅡ（黒色）が10%（20羽中2羽）、羽色タイプⅢ（黒褐色）が5%（20羽中1羽）を占めた。

「⑨88×YC♀」は、羽色が2タイプあり、羽色タイプⅠ（黒色）が90%（20羽中18羽）、羽色タイプⅡ（黒色斑）が10%（20羽中2羽）を占めた。



（図8－7）＜⑦57×831♂＞「P S♂」の羽色



(図 8 - 8) <⑧87×981♀>「P S ♀」の羽色



(図 8 - 9) <⑨88×YC♀>「P S ♀」の羽色

イ 12 週齢時（CM(①～③検定終了時全数）：羽色・外貌特徴、図 9－1～11 参照）

CMの「①57×86♂」は、羽色タイプⅠ（濃赤色）が 89.1%（92 羽中 82 羽）、羽色タイプⅡ（褐色）が 10.9%（92 羽中 10 羽）を占めた。外貌の特徴は、何れも体型が肉用種型（コーチン型）、単冠、耳朵色は赤色、脚色は黄色（一部分に褐色が混在）であった。

「②57×86♀」は、羽色タイプⅠ（褐色）が 54.1%（98 羽中 53 羽）、羽色タイプⅡ（淡褐色）が 45.9%（98 羽中 45 羽）を占めた。外貌の特徴は、何れも体型が肉用種型（コーチン型）、単冠、耳朵色は赤色又は白色、脚色は黄色（一部分に褐色が混在）であった。

「③57×XSYC♂」は、羽色タイプⅠ（横斑）が 40.4%（99 羽中 40 羽）、羽色タイプⅡ（横斑一部白色）が 37.4%（99 羽中 37 羽）、羽色タイプⅢ（白色斑）が 22.2%（99 羽中 22 羽）を占めた。外貌の特徴は、何れも体型が肉用種型（コーチン型）、単冠、耳朵色は赤色、脚色は黄色（一部分に鉛色が混在）であった。

<①57×86♂>「CM♂」



（図 9－1）<①57×86♂>（CM♂）羽色タイプⅠの羽色・外貌の特徴



(図 9 - 2) <①57×86♂> (CM♂) 羽色タイプⅡの羽色・外貌の特徴



(図 9 - 3) <①57×86♂> (CM♂) の飼養状況 (羽色の比較)

<②57×86♀> 「CM♀」

「羽色タイプⅠ」(通常色)

羽 色 : 褐色
 割 合 : 54.1%(53羽/98羽)
 体 型 : 肉用種型(コーチン型)
 冠 : 単冠(全羽数)
 耳朵色 : 白又は赤
 脚 色 : 黄(一部褐色)



(図 9 - 4) <②57×86♀> (CM♀) 羽色タイプⅠの羽色・外貌の特徴

「羽色タイプⅡ」

羽 色 : 淡褐色
 割 合 : 45.9%(45羽/98羽)
 体 型 : 肉用種型(コーチン型)
 冠 : 単冠(全羽数)
 耳朵色 : 白又は赤
 脚 色 : 黄(一部褐色)



(図 9 - 5) <②57×86♀> (CM♀) 羽色タイプⅡの羽色・外貌の特徴



(図 9 - 6) <②57×86♀> (CM♀) の飼養状況



(図 9 - 7) <②57×86♀> (CM♀) の飼養状況 (羽色の比較)

<③57×XSYC♂>「CM♂」

「羽色タイプⅠ」(通常色)

羽 色 : 横斑
 割 合 : 40.4%(40羽/99羽)
 体 型 : 肉用種型(コーチン型)
 冠 : 単冠(全羽数)
 耳朵色 : 赤
 脚 色 : 黄(一部鉛色)



(図 9 - 8) <③57×XSYC♂> (CM♂) 羽色タイプⅠの羽色・外貌の特徴

「羽色タイプⅡ」

羽 色 : 横斑(一部白色)
 割 合 : 37.4%(37羽/99羽)
 体 型 : 肉用種型(コーチン型)
 冠 : 単冠(全羽数)
 耳朵色 : 赤
 脚 色 : 黄(一部鉛色)



(図 9 - 9) <③57×XSYC♂> (CM♂) 羽色タイプⅡの羽色・外貌の特徴

「羽色タイプⅢ」

羽 色 : 白色斑
 割 合 : 22.2% (22羽/99羽)
 体 型 : 肉用種型(コーチン型)
 冠 : 単冠(全羽数)
 耳朵色 : 赤
 脚 色 : 黄



(図 9 - 10) <③57×XSYC♂> (CM♂) 羽色タイプⅢの羽色・外貌の特徴



(図 9 - 11) <③57×XSYC♂> (CM♂) の飼養状況

ウ 18 週齢時（CM(④～⑥検定終了時全数)、PS(⑦～⑧全数)：羽色・外貌特徴、
図 10－1 ～20 参照)

CMの「④57×XSYC♀」は、羽色タイプⅠ（濃赤色）が 50.5%（95 羽中 48 羽）、羽色タイプⅡ（黒色(一部茶色)）が 36.8%（95 羽中 35 羽）、羽色タイプⅢ（黒色）が 12.6%（95 羽中 12 羽）を占めた。外貌の特徴は、何れも体型が肉用種型（コーチン型）、単冠、耳朶色は赤色又は白色、脚色は黄色（一部分に褐色・黒色が混在）であった。

「⑤834×XSYC♂」は、羽色タイプⅠ（白色斑）が 48.9%（94 羽中 46 羽）、羽色タイプⅡ（横斑(一部白色)）が 45.7%（94 羽中 43 羽）、羽色タイプⅢ（横斑）が 5.3%（94 羽中 5 羽）を占めた。外貌の特徴は、何れも体型が肉用種型（コーチン型）、冠は豆冠(80%以上)と単冠が確認され、耳朶色は赤色（一部白色）、脚色は黄色（一部分に鉛色が混在）であった。

「⑥834×XSYC♀」は、羽色タイプⅠ（褐色）が 35.2%（91 羽中 32 羽）、羽色タイプⅡ（黒色(頭頸部褐色)）が 29.7%（91 羽中 27 羽）、羽色タイプⅢ（黒褐色）が 24.2%（91 羽中 22 羽）、羽色タイプⅣ（黒色）が 11.0%（91 羽中 10 羽）を占めた。外貌の特徴は、何れも体型が肉用種型（コーチン型）、冠は豆冠(80%以上)と単冠が確認され、耳朶色は赤色、脚色は黄色（一部分に褐色・黒色が混在）であった。

<④57×XSYC♀> 「CM♀」



(図 10－1) <④57×XSYC♀> (CM♀) 羽色タイプⅠの羽色・外貌の特徴

「羽色タイプⅡ」

羽 色 : 黒色(一部茶色)
 割 合 : 36.8% (35羽/95羽)
 体 型 : 肉用種型(コーチン型)
 冠 : 単冠(全羽数)
 耳朶色 : 赤
 脚 色 : 黄(一部黒色)



(図 10-2) <④57×XSYC♀> (CM♀) 羽色タイプⅡの羽色・外貌の特徴

「羽色タイプⅢ」

羽 色 : 黒色
 割 合 : 12.6% (12羽/95羽)
 体 型 : 肉用種型(コーチン型)
 冠 : 単冠(全羽数)
 耳朶色 : 白又は赤
 脚 色 : 黄(一部黒色)



(図 10-3) <④57×XSYC♀> (CM♀) 羽色タイプⅢの羽色・外貌の特徴



(図 10-4) <④57×XSYC♀> (CM♀) の飼養状況

<⑤834×XSYC♂> 「CM♂」



「羽色タイプ I」(通常色)

羽色 : 白色斑
割合 : 48.9% (46羽/94羽)
体型 : 肉用種型(コーン型)
冠 : 豆冠40羽、単冠6羽
耳朵色 : 赤
脚色 : 黄

(図 10-5) <⑤834×XSYC♂> (CM♂) 羽色タイプ I の羽色・外貌の特徴

「羽色タイプⅡ」

羽 色 : 横斑(一部白色)
 割 合 : 45.7%(43羽/94羽)
 体 型 : 肉用種型(コーチン型)
 冠 : 豆冠38羽、単冠5羽
 耳朵色 : 赤(一部白)
 脚 色 : 黄(一部鉛色)



(図 10-6) <⑤834×XSYC♂> (CM♂) 羽色タイプⅡの羽色・外貌の特徴

「羽色タイプⅢ」

羽 色 : 横斑
 割 合 : 5.3%(5羽/94羽)
 体 型 : 肉用種型(コーチン型)
 冠 : 豆冠4羽、単冠1羽
 耳朵色 : 赤
 脚 色 : 黄(一部鉛色)



(図 10-7) <⑤834×XSYC♂> (CM♂) 羽色タイプⅢの羽色・外貌の特徴



(図 10-8) <⑤834×XSYC♂> (CM♂) の飼養状況

<⑥834×XSYC♀> 「CM♀」

「羽色タイプ I」(通常色)

羽 色 : 褐色
 割 合 : 35.2% (32羽/91羽)
 体 型 : 肉用種型(コーン型)
 冠 : 豆冠27羽、単冠5羽
 耳朵色 : 赤
 脚 色 : 黄(一部褐色)



(図 10-9) <⑥834×XSYC♀> 「CM♀」 羽色タイプ I の羽色・外貌の特徴

「羽色タイプⅡ」

羽 色 : 黒色(頭頸部褐色)
 割 合 : 29.7%(27羽/91羽)
 体 型 : 肉用種型(コーチン型)
 冠 : 豆冠24羽、単冠3羽
 耳朵色 : 赤
 脚 色 : 黄(一部黒色)



(図 10-10) <⑥834×XSYC♀> (CM♀) 羽色タイプⅡの羽色・外貌の特徴

「羽色タイプⅢ」

羽 色 : 黒褐色
 割 合 : 24.2%(22羽/91羽)
 体 型 : 肉用種型(コーチン型)
 冠 : 豆冠13羽、単冠9羽
 耳朵色 : 赤
 脚 色 : 黄(一部黒色)



(図 10-11) <⑥834×XSYC♀> (CM♀) 羽色タイプⅢの羽色・外貌の特徴



(図 10-12) <⑥834×XSYC♀> (CM♀) 羽色タイプⅣの羽色・外貌の特徴



(図 10-13) <⑥834×XSYC♀> (CM♀) の飼養状況

一方、P S の「⑦57×831♂」は、羽色タイプ I（濃赤色）が 100%（87 羽中 87 羽）であった。外貌の特徴は、何れも体型が肉用種型（地鶏型）、豆冠、耳朶色は赤色（一部白色）、脚色は黄色（一部分に褐色が混在）であった。

「⑧87×981♀」は、羽色タイプ I（淡褐色(名古屋種特有色)）が 90.4%（94 羽中 85 羽）、羽色タイプ II（黒褐色斑）が 9.6%（94 羽中 9 羽）を占めた。外貌の特徴は、何れも体型が肉用種型（地鶏型）、単冠、耳朶色は赤色、脚色は鉛色。

「⑨88×YC♀」は、羽色タイプ I（横斑）が 100%（89 羽中 89 羽）であった。外貌の特徴は、何れも体型が肉用種型（地鶏型）、単冠、耳朶色は赤色、脚色は黄色（一部分に鉛色が混在）であった。

<⑦57×831♂> 「P S ♂」



(図 10-14) <⑦57×831♂> (P S ♂) の羽色・外貌の特徴



(図 10-15) <⑦57×831♂> (P S ♂) の飼養状況

<⑧87×981♀> 「P S ♀」

「羽色タイプ I」(通常色)

羽 色 : 淡褐色(名古屋種特有色)
 割 合 : 90.4%(85羽/94羽)
 体 型 : 肉用種型(地鶏型)
 冠 : 単冠(全羽数)
 耳朵色 : 赤
 脚 色 : 鉛色



(図 10-16) <⑧87×981♀> 「P S ♀」 羽色タイプ I の羽色・外貌の特徴



(図 10-17) <⑧87×981♀> 「P S ♀」 羽色タイプⅡの羽色・外貌の特徴



(図 10-18) <⑧87×981♀> 「P S ♀」 の飼養状況

<⑨88×YC♀>「P S ♀」

「羽色タイプⅠ」(通常色)

羽 色 : 横斑
 割 合 : 100%(89羽/89羽)
 体 型 : 肉用種型(地鶏型)
 冠 : 単冠(全羽数)
 耳朵色 : 赤
 脚 色 : 黄(一部鉛色)



(図 10-19) <⑨88×YC♀>「P S ♀」の羽色・外貌の特徴



(図 10-20) <⑨88×YC♀>「P S ♀」の飼養状況

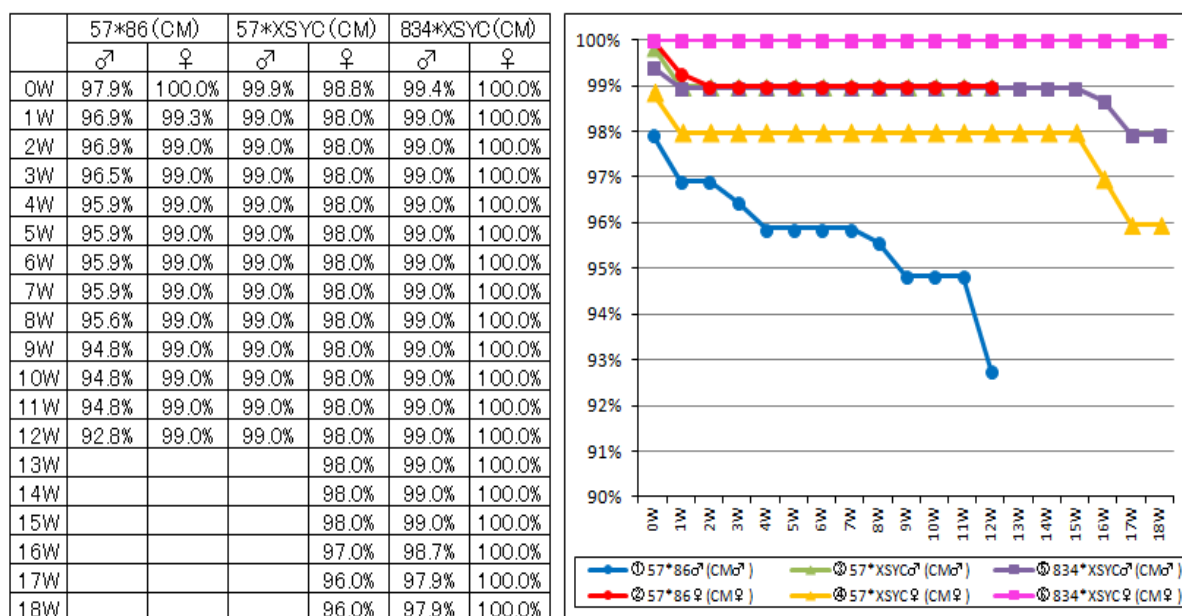
(5) 育成率・生存率

ア 育成率（CM・PS、表 18～19・図 11～12 参照）

CMにおいて、特に目立って育成率が低かった「①57*86♂」は、4週齢までに弱雛・尿酸塩沈着症などが発生し、その後、8週齢頃から腹水症や心臓病、脚弱の発生により斃死・淘汰され、検定終了時の12週齢（84日齢）の育成率は92.8%となった。（※見込出荷日齢の54～57日齢頃では96%程度と推察される。）

次いで育成率が低かった「③57*XSYC♀」は、3日齢に弱雛で斃死・淘汰し、その後は、16週齢から腹腔内出血・ツツキが発生したが、特に目立った症状は認められず、12週齢の育成率は96%となった。（※見込出荷日齢の92～98日齢頃では98%程度と推察される。）

なお、その他の組合せについては、18週齢までの育成率が概ね98%以上であり、見込出荷日齢での育成率は99%以上と推察される。



※ 日齢毎の育成率を各週で平均化した育成率であることに留意。

※ 57*86♂♀・57*XSYC♂は0～84日齢(え付～検定終了日)、57*XSYC♀・834*XSYC♂♀は0～126日齢(え付～検定終了日)の育成率。

※ 57*86♂♀及び57*XSYC♂の12Wは84日齢時(1日間)、57*XSYC♀及び834*XSYC♂♀の18Wは126日齢時(1日間)の育成率。

※ 傷病によらない淘汰鶏(誤鑑別・事故死・検査淘汰)は、育成率算出より除外(え付羽数から除外)。

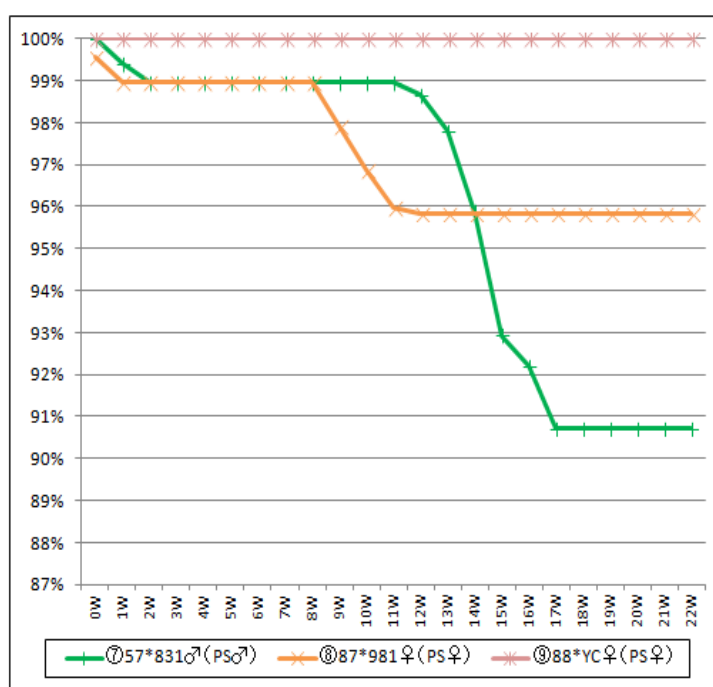
(表 18・図 11) CMの育成率の推移

一方、PSは、特に目立って育成率が低かった「⑦57*831♂」では、11週齢までは概ね順調であったものの、その後、発育不良による淘汰が目立ち、検定終了時の22週齢（126日齢）の育成率は91%程度となった。

「⑧87*981♀」は、8週齢までは概ね順調であったものの、その後、消化器病での斃死や発育不良による淘汰により、22週齢の育成率は96%程度となった。

「⑨88*YC♀」の育成率は、期間を通して100%であった。

	57*831♂(PS)	87*981♀(PS)	88*YC♀(PS)
0W	100.0%	99.6%	100.0%
1W	99.4%	99.0%	100.0%
2W	99.0%	99.0%	100.0%
3W	99.0%	99.0%	100.0%
4W	99.0%	99.0%	100.0%
5W	99.0%	99.0%	100.0%
6W	99.0%	99.0%	100.0%
7W	99.0%	99.0%	100.0%
8W	99.0%	99.0%	100.0%
9W	99.0%	97.9%	100.0%
10W	99.0%	96.9%	100.0%
11W	99.0%	96.0%	100.0%
12W	98.7%	95.8%	100.0%
13W	97.8%	95.8%	100.0%
14W	95.9%	95.8%	100.0%
15W	92.9%	95.8%	100.0%
16W	92.2%	95.8%	100.0%
17W	90.7%	95.8%	100.0%
18W	90.7%	95.8%	100.0%
19W	90.7%	95.8%	100.0%
20W	90.7%	95.8%	100.0%
21W	90.7%	95.8%	100.0%
22W	90.7%	95.8%	100.0%



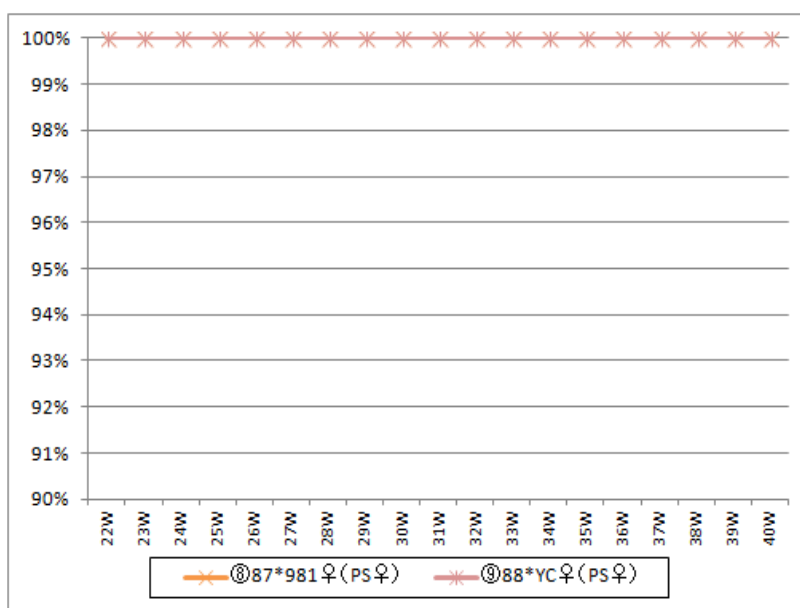
- ※ 日齢毎の育成率を各週で平均化した育成率であることに留意。
- ※ 0～154日齢(え付～154日齢)の育成率。22Wは154日齢時(1日間)の育成率。
- ※ 傷病によらない淘汰鶏(誤鑑別・事故死・検査淘汰)は、育成率算出より除外(え付羽数から除外)。

(表 19・図 12) P S の育成率の推移

イ 生存率 (P S ♀のみ、表 20・図 13 参照)

P S ♀の生存率算出の起点である 155 日齢から検定終了時の 240 日齢までへい死・淘汰はなく、生存率は「⑧87×981♀」及び「⑨88×YC♀」ともに期間を通して 100%とであった。

	87*981♀(PS)	88*YC♀(PS)
22W	100.0%	100.0%
23W	100.0%	100.0%
24W	100.0%	100.0%
25W	100.0%	100.0%
26W	100.0%	100.0%
27W	100.0%	100.0%
28W	100.0%	100.0%
29W	100.0%	100.0%
30W	100.0%	100.0%
31W	100.0%	100.0%
32W	100.0%	100.0%
33W	100.0%	100.0%
34W	100.0%	100.0%
35W	100.0%	100.0%
36W	100.0%	100.0%
37W	100.0%	100.0%
38W	100.0%	100.0%
39W	100.0%	100.0%
40W	100.0%	100.0%



- ※ 日齢毎の生存率を各週で平均化した生存率であることに留意。
- ※ 22Wは155～160日齢時(6日間)の生存率。
- ※ 40Wは280日齢時(1日間)の生存率。
- ※ 傷病によらない淘汰鶏(誤鑑別・事故死・検査淘汰)は、生存率算出より除外(154日齢時の羽数から除外)。

(表 20・図 13) P S ♀ の生存率の推移

(6) へい死・淘汰要因 (表 21～22 参照)

CMのうち、へい死・淘汰率が高かったのは、「①57×86♂」であり、その要因は、特に全身病（弱雛）に係るもの（7羽中2羽）が多く発生し、その他特に目立った症状はなく、検定終了時の84日齢までのへい死・淘汰率は6.9%となった。

次いで、へい死・淘汰率が高かった「④57×XSYC♀」では、特に全身病（弱雛）に係るもの（4羽中2羽）が多く発生し、その他特に目立った症状はなく、検定終了時までのへい死・淘汰率は3.8%となった。

その他のCM（②③⑤）では、特に目立った症状はないものの、弱雛、首曲がり、捻転脚、削そうが発生し、検定終了時までのへい死・淘汰率は1～2%となった。

「⑥834×XSYC♀」は、検定期間中のへい死・淘汰はなかった。

(表 21) CMのへい死・淘汰率 (日齢/羽数)

症状	57×86 (CM)		57×XSYC (CM)		834×XSYC (CM)	
	① ♂	② ♀	③ ♂	④ ♀	⑤ ♂	⑥ ♀
首曲がり					1.0% (3/13羽)	
脚弱	1.0% (84/13羽)					
趾曲がり	1.0% (25/13羽)					
捻転脚		1.0% (9/13羽)				
心臓肥大	1.0% (84/13羽)					
尿酸塩沈着症	1.0% (3/13羽)					
腹腔内出血				1.0% (114/13羽)		
腹水症	1.0% (61/13羽)					
削そう(消耗死)					1.0% (117/13羽)	
悪癖(外傷)				1.0% (117/13羽)		
弱雛	2.0% (173/23羽)		1.0% (6/13羽)	1.9% (3/23羽)		
計	6.9% (7羽)	1.0% (1羽)	1.0% (1羽)	3.8% (4羽)	2.0% (2羽)	0.0% (0羽)

※「①57×86♂」・「②57×86♀」・「③57×XSYC♂」は12W(84日齢:H27/6/1)までのデータとした。

※「④57×XSYC♀」・「⑤834×XSYC♂」・「⑥834×XSYC♀」は18W(126日齢:H27/7/13)までのデータとした。

※へい死・淘汰率は、え付羽数から事故死・検査淘汰・誤鑑別を除いたものを補正え付羽数とし、その羽数に対する率。

一方、PSのうち、へい死・淘汰率が高かったのは、「⑦57×831♂」であり、その要因は、特に全身病（発育不良）に係るもの（8羽中7羽）が多く発生し、その他特に目立った症状はなく、検定終了時の154日齢までのへい死・淘汰率は8.2%となった。

また、「⑧87×981♀」は、特に目立った症状はないものの、弱雛、食滞症、胃拡張、発育不良が発生し、検定終了時の280日齢までのへい死・淘汰率は4.6%となった。

「⑨88×YC♀」は、検定期間中のへい死・淘汰はなかった。

(表 22) PSのへい死・淘汰率 (日齢/羽数)

症状	⑦57×831♂(PS♂)	⑧87×981♀(PS♀)	⑨88×YC♀(PS♀)
食滞症		1.1% (63/13羽)	
胃拡張		1.1% (70/13羽)	
発育不良	7.2% (89～118/7羽)	1.1% (78/13羽)	
弱雛	1.0% (10/13羽)	1.1% (4/13羽)	
計	8.2% (8羽)	4.6% (4羽)	0.0% (0羽)

※PS♂は22W(154日齢:「⑦57×831♂」はH27/9/7)までのデータとした。

※PS♀は40W(280日:「⑧87×981♀」はH27/12/13、「⑨88×YC♀」はH28/1/11)までのデータとした。

※へい死・淘汰率は、え付羽数から事故死・検査淘汰・誤鑑別を除いたものを補正え付羽数とし、その羽数に対する率。

(7) 産卵性能 (P S ♀のみ)

ア 各性能 (表 23 参照)

50%産卵日齢は、「⑧87×981♀」で 192 日齢、「⑨88×YC♀」で 181 日齢となった。

ピーク産卵率は、「⑧87×981♀」で 91.9%、「⑨88×YC♀」で 95.6%となった。

211～280 日齢までの期間産卵率は、「⑧87×981♀」で 80.8%、「⑨88×YC♀」で 91.7 %となった。

(表 23) P S ♀の産卵性能

項 目	⑧87×981♀ (PS♀)		⑨88×YC♀ (PS♀)	
	結 果	算出根拠等	結 果	算出根拠等
50% 産卵日齢	192 日齢	191 日齢 : 44.6% 192 日齢 : 55.6% 193 日齢 : 52.2%	181 日齢	180 日齢 : 46.4% 181 日齢 : 59.5% 182 日齢 : 47.6%
ピーク 産卵率	91.9%	220 日齢 : 95.6% 221 日齢 : 91.1% 222 日齢 : 88.9% } 91.9%	95.6%	198 日齢 : 95.2% 199 日齢 : 94.0% 200 日齢 : 97.6% } 95.6%
期間 産卵率	80.8%	期間産卵個数 : 4,789 個 期間延べ羽数 : 5,929 羽	91.7%	期間産卵個数 : 5,143 個 期間延べ羽数 : 5,610 羽

※「50%産卵日齢」は、産卵率が 50%に達した最初の日齢

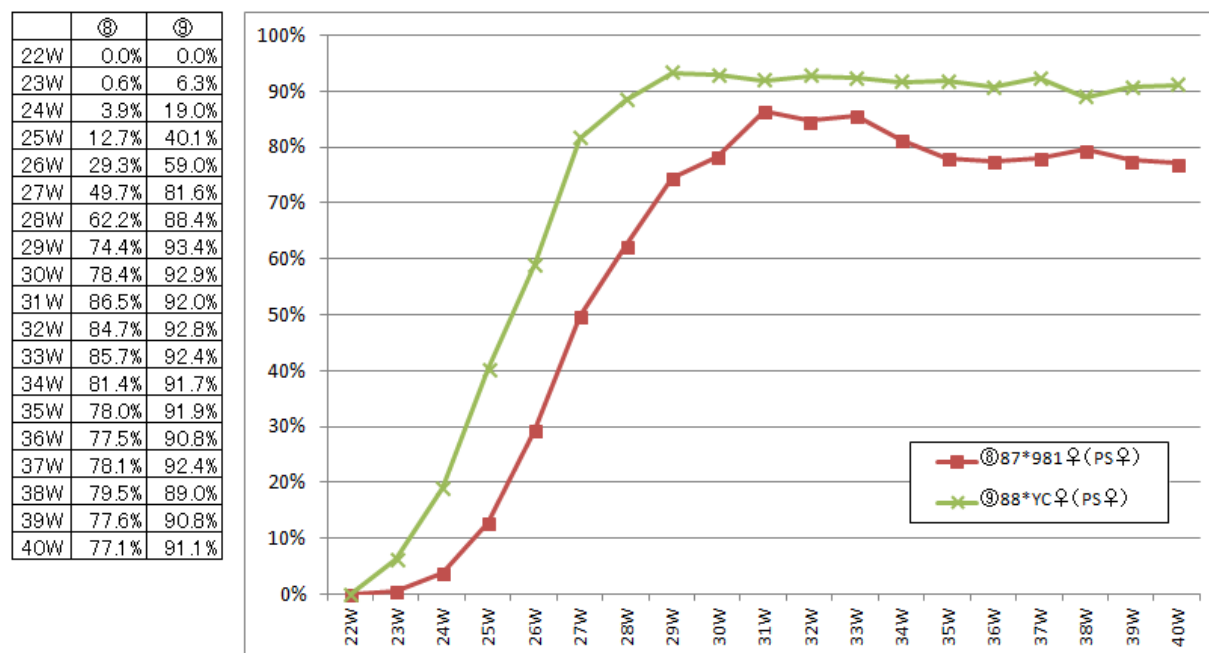
※「ピーク産卵率」は、産卵ピーク時 3 日間の平均産卵率

※「期間産卵率」は、211～280 日齢の期間産卵個数／期間延べ羽数

イ 週齢毎産卵率 (表 24・図 14 参照)

各週齢毎の平均産卵率は、「⑧87×981♀」では、23 週齢よりゆるやかに上昇し、24 週齢以降の産卵率に応じた飼料給餌量の調整等により、産卵ピークの 31 週齢の 86%台まで大きく上昇し、ピーク後の 34 週齢以降から若干低下したものの、検定終了時の 40 週齢では 77.1%となった。

一方、「⑨88×YC♀」は、23 週齢以降の産卵率に応じた飼料給餌量の調整等により、ピークと思われる 29 週齢の 93%台まで大きく上昇し、検定終了時の 40 週齢では 91.1 %となった。



※ 日齢毎の産卵率を各週齢で平均化した産卵率であることに留意。

※ 40Wは280日齢時(1日間)の産卵率。

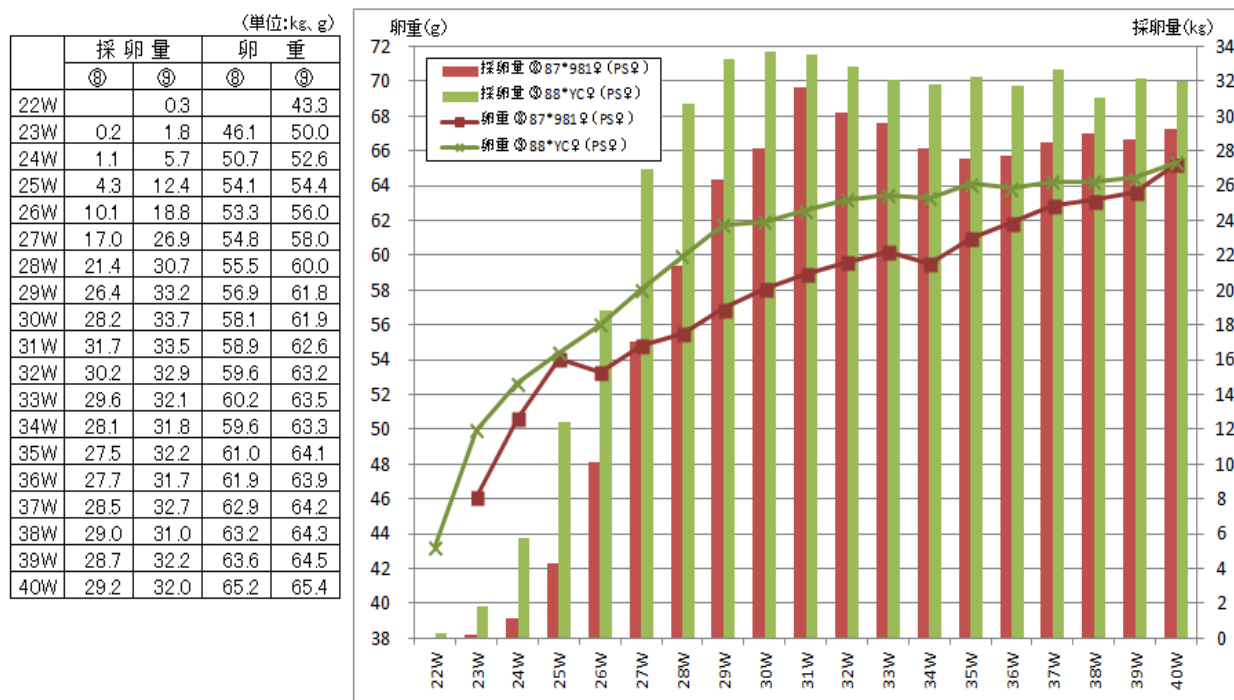
(表 24、図 14) P S ♀の週齢毎産卵率の推移

(8) 卵質性能 (P S ♀のみ)

ア 週齢毎平均卵重・採卵量 (表 25・図 15 参照)

各週齢毎の平均卵重は、初産時では「⑧87×981♀」が 46 g、「⑨88×YC♀」が 43 g 程度で、その後「⑧87×981♀」が 26 週齢で一時停滞したが、「⑧87×981♀」が 33 週齢、「⑨88×YC♀」が 28 週齢に 60 g に到達し、検定終了時の 40 週齢では両組合せとも 65 g 程度となった。

採卵量は、産卵率と卵重を反映し、「⑧87×981♀」では 26 週齢から 31 週齢まで大きく上昇し、産卵ピーク後の 32 週齢での産卵率低下を反映し 35 週齢で 27.5 kg まで低下したが、その後は 28～29 kg 程度を維持し、検定終了時 40 週齢では 29.2 kg となった。「⑨88×YC♀」では、25 週齢から 29 週齢まで大きく上昇し、産卵ピーク後の 33 週齢以降は 31～32 kg 程度を維持し、検定終了時の 40 週齢では 32 kg となった。



※ 採卵量は日齢毎の採卵量を各週齢で合計した採卵量。但し、40Wは280日齢時(1日間)の採卵量を7日間分として算出。

※ 卵重は各週齢で1日分の平均卵重を測定。40Wは検定終了日の平均卵重。

(表 25、図 15) P S ♀ の週齢毎平均卵重・採卵量の推移

イ 卵重・卵殻強度 (P S ♀のみ：表 26～30、図 16～19 参照)

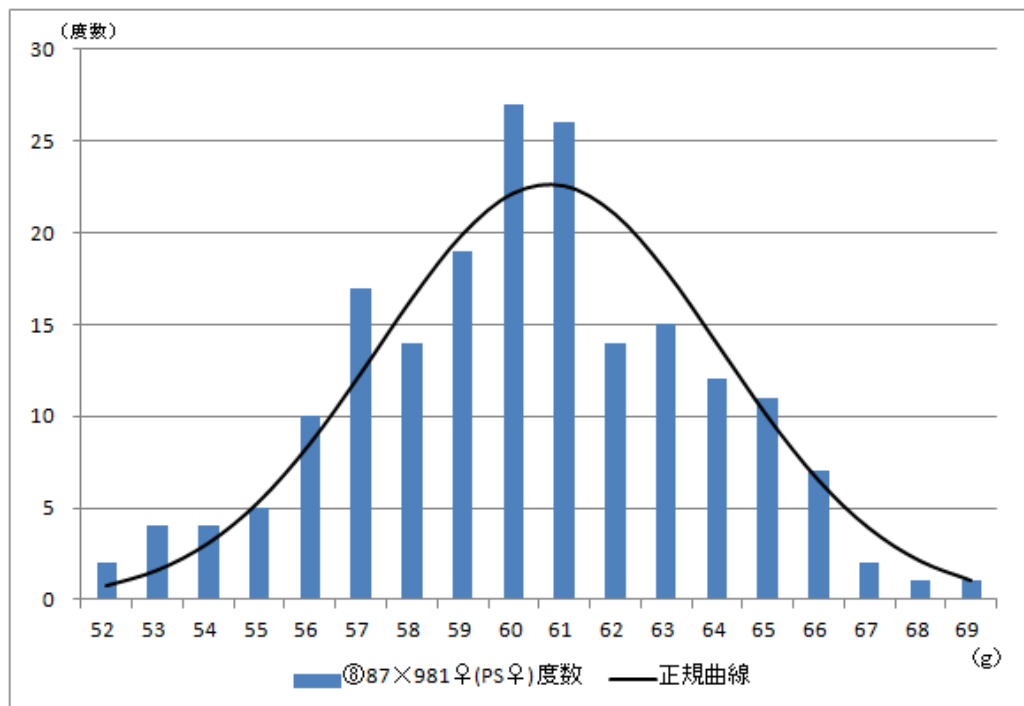
35 週齢時の卵質検査結果 (3 日間平均) において、卵重の平均値は「⑧87×981♀」で 60.7 g、「⑨88×YC♀」で 64.1 g、卵殻強度の平均値は「⑧87×981♀」で 4.16 kg/cm²、「⑨88×YC♀」で 3.99 kg/cm² となった。これら全ての測定値からそれぞれ度数分布、正規分布を求めた結果、表 27～30、図 16～19 のような分布となった。

(表 26) 35 週齢卵質検査結果 (全数：3 日間平均)

		平均	最大	最小	標準偏差	個数
卵 重 (g)	⑧87×981♀	60.7	69.6	52.8	3.35	191
	⑨88×YC♀	64.1	75.4	52.4	4.11	224
卵殻強度 (kg/cm ²)	⑧87×981♀	4.16	5.55	2.06	0.67	190
	⑨88×YC♀	3.99	5.63	2.05	0.61	218

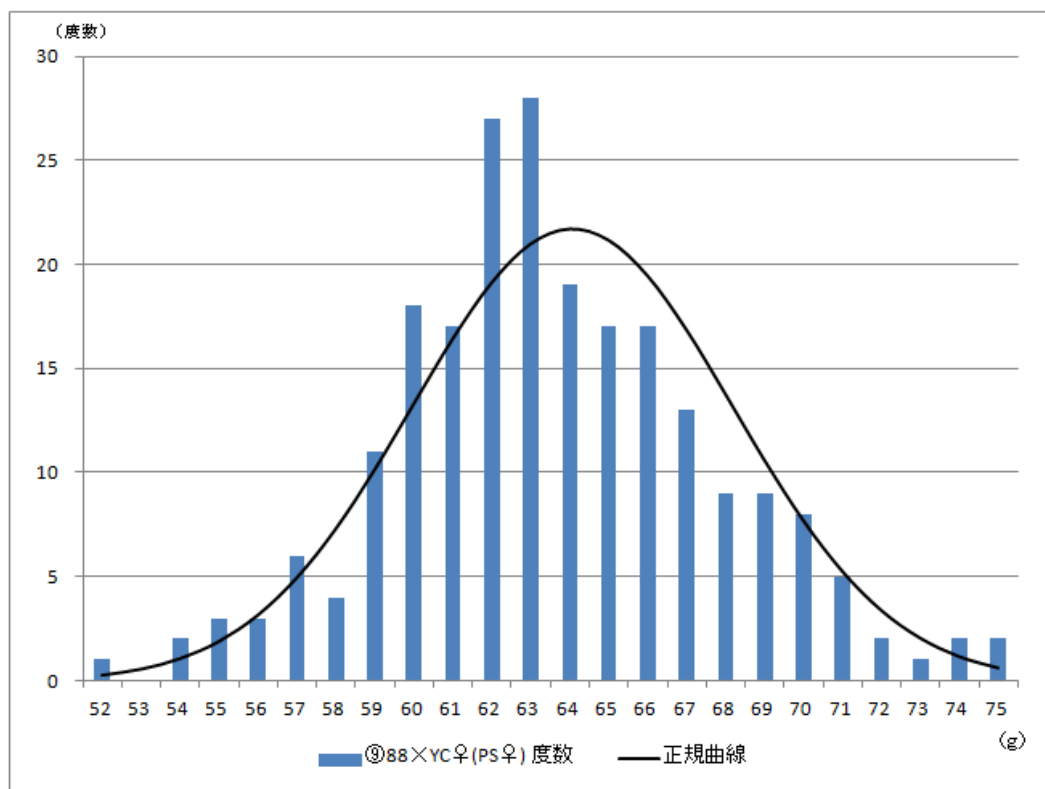
※ 測定期間：「⑧87×981♀」= H27.11.8～10、「⑨88×981♀」= H27.12.6～8

卵重 (g)	度数
52	2
53	4
54	4
55	5
56	10
57	17
58	14
59	19
60	27
61	26
62	14
63	15
64	12
65	11
66	7
67	2
68	1
69	1
	191



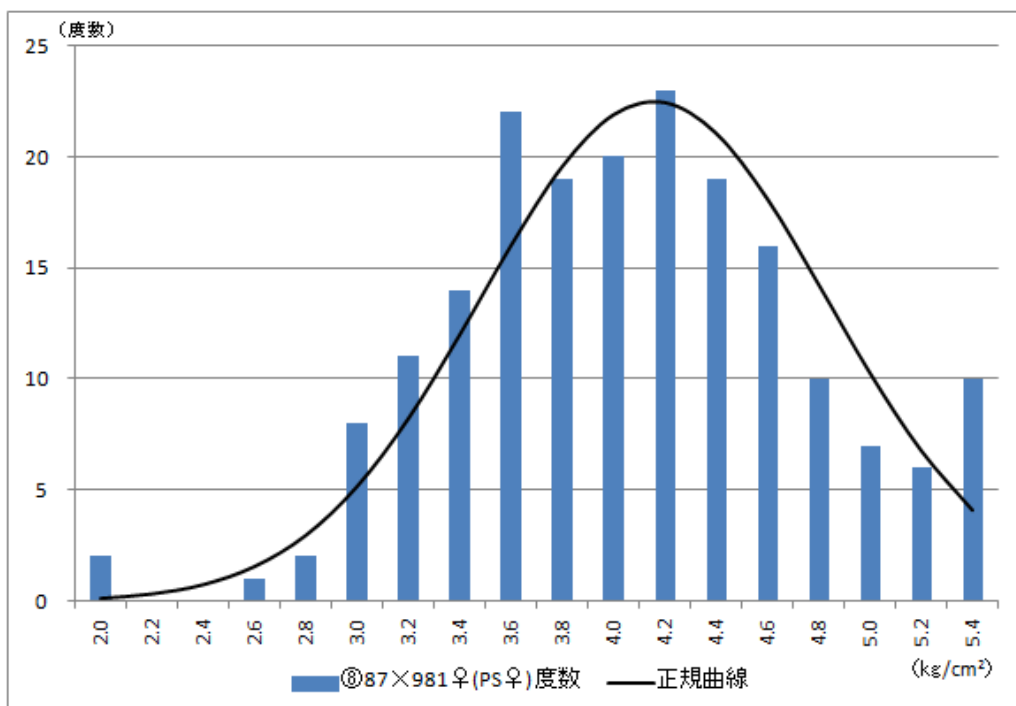
(表 27、図 16) <⑧87×981♀> 「P S ♀」の卵重の度数分布・正規分布

卵重 (g)	度数
52	1
53	0
54	2
55	3
56	3
57	6
58	4
59	11
60	18
61	17
62	27
63	28
64	19
65	17
66	17
67	13
68	9
69	9
70	8
71	5
72	2
73	1
74	2
75	2
	224



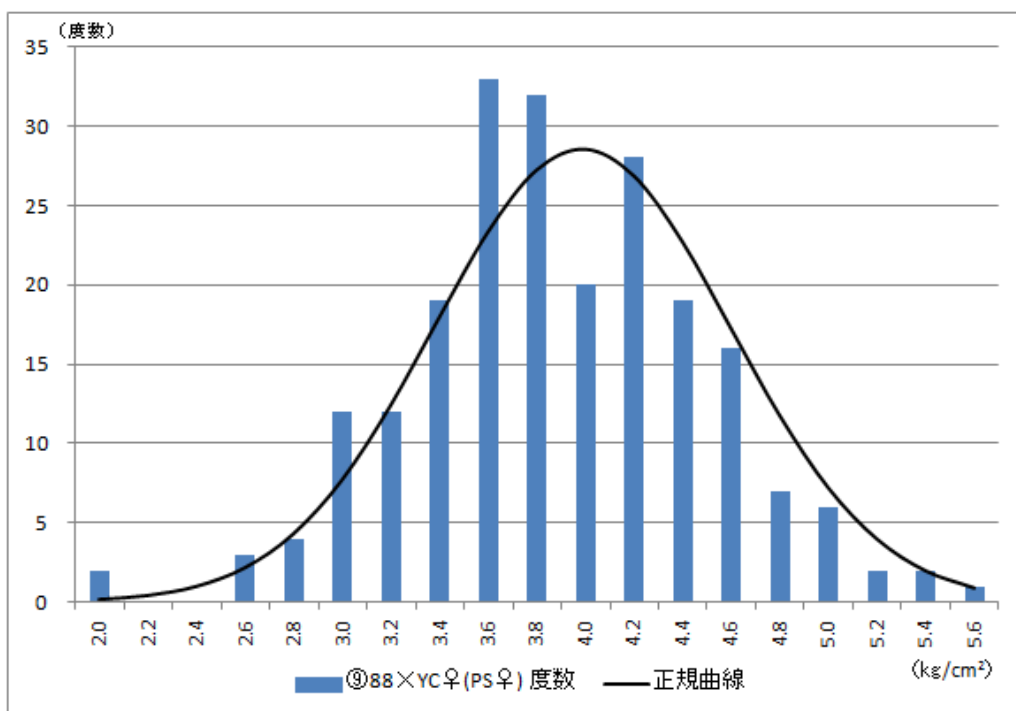
(表 28、図 17) <⑨88×YC♀> 「P S ♀」の卵重の度数分布・正規分布

卵殻強度 (kg/cm ²)	度数
2.0	2
2.2	0
2.4	0
2.6	1
2.8	2
3.0	8
3.2	11
3.4	14
3.6	22
3.8	19
4.0	20
4.2	23
4.4	19
4.6	16
4.8	10
5.0	7
5.2	6
5.4	10
計	190



(表 29、図 18) <⑧87×981♀>「P S ♀」の卵殻強度の度数分布・正規分布

卵殻強度 (kg/cm ²)	度数
2.0	2
2.2	0
2.4	0
2.6	3
2.8	4
3.0	12
3.2	12
3.4	19
3.6	33
3.8	32
4.0	20
4.2	28
4.4	19
4.6	16
4.8	7
5.0	6
5.2	2
5.4	2
5.6	1
計	218



(表 30、図 19) <⑨88×YC♀>「P S ♀」の卵殻強度の度数分布・正規分布